

令和4年度第2回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見

議事(2) 「子ども虐待防止に関する職務に従事する職員の人材育成ビジョン及び一般事務（福祉コース）育成方針」の策定について

No	委員名	資料番号	意見	札幌市の考え方
1	深澤 梨恵	資料1, 2	<p>虐待や若年女性の側にいる“男性”の存在が気になりました。彼らが虐待の現場にいる可能性は多く、また、母親が暴力などを止められないというケースもあると思います。女性だけではなく、そういった状況になる前に“男性”へのアプローチが無いのか、幼少期からのサポート（まさにこの会議に出てきたプランそのものがそういった子どもたちを子どもから成人へとアシストすると思うのですが）の必要性を感じました。札幌市で“性に関すること”、“命のことに関して”などもどう学んでいくかの指針はあるとは思いますが、子どもの成長をサポートする上でも根っこになるような大事なこととして“命が生まれること”そしてその生命は親だけではなく、地域もサポートしているということを伝え続けていかなければならないんだと感じました。</p>	<p>札幌市教育委員会では、「人間尊重の教育」を学校教育の重点の基盤とし、そのガイドラインの中で「性に関する学習の推進」「生命を大切に学習の推進」について、指導場面などを示しています。</p> <p>また、札幌市として若者を対象としたデートDV防止講座等を実施しており、引き続き、生命を大切にし、暴力を許さない地域社会づくりに取り組んでいきます。</p> <p>（子ども未来局子供育成部、市民文化局男女共同参画室、教育委員会）</p>
2	深澤 梨恵	資料2	<p>子どもの虐待防止に関する職務に従事する職員への人材育成について、市民に対しても子どもの虐待は「チームになってサポートしよう」という体制を示してもいいのではと感じました。子どもの虐待に関して心苦しく感じる人は多いと思います。</p> <p>例えば生活圏内のスーパー、薬局、量販店、飲食店などのスタッフ（町内会の方々も）が「子どもへの虐待をみつけたとき」、「子どもが困っている様子がある」、「親が困っている様子がある」など、地域ぐるみで情報を共有できるようなサポート体制ができないのでしょうか。</p> <p>企業（coop、イオンや薬局など大きな組織帯）であれば、社員（パートも含む）がキャリアアップの学びとして「地域の視点を持って現場業</p>	<p>札幌市では民生委員・児童委員や主任児童委員などの各種委員、児童関係施設職員、一般市民を対象に児童虐待に関する研修を実施し、受講いただいた方を「札幌市オレンジリボン地域協力員」として認定した上で、児童虐待の発見・通報、情報提供や見守り等の活動にご協力いただいています。</p> <p>また、活動にご賛同いただいている企業には、社員の方に上記研修の受講を促していただき、</p>

令和4年度第2回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見

		<p>務を遂行する」という今時点での仕事にちょっとしたレイヤーの視点を持つことで、福祉関連の人だけでなく、福祉的視点を持った一般の人を育てることで、当事者自体をサポートできないものではないのでしょうか。</p>	<p>業務を通じた子ども達の見守り等にご協力をいただいております。</p> <p>今後も、地域の方々や企業との連携を進め、社会全体での児童虐待防止に向けた機運醸成に努めていきたいと考えています。</p> <p>(子ども未来局児童相談所)</p>
--	--	---	--